

夢通信

平成21年 5月号

夢をつなく 心をつなく 世界をむすぶ
きぬのつ せいさ こうぎょう

衣川製鎖工業株式会社

衣川 良介



『隕鉄 (いんてつ) = 天降鉄』

ある時、書名は忘れてしまいましたが、鉄片にきれいな幾何学模様のある写真を見つけ、それには隕鉄と書かれていました。『どうしてこんな模様が出るの?』『どこにあるの?』不思議に思った私は、それを見たい、手に入れたいと考え色々調べました。鉄の歴史と化学の本には以下のように書かれていました。

隕鉄は太陽系の火星と木星との間の小惑星帯から飛来し、地球の大気中でも燃え尽きずに地上に落下した金属のかけらで、石質のものは隕石と呼ばれる。宇宙空間での冷却速度は百万年に1℃といわれます。成分はほとんどが鉄ですが、ニッケルを多く含み、切断、研磨し、希硝酸などでエッチングすると、地球上の物質にはない独特の美しい結晶組織が見られる。特にニッケル含有率7%から12%のオクタヘドライトには、「ウィドマンステッテン組織」と呼ばれる複雑な格子状の美しい組織が見られる。

2003年8月、香川県の新居浜市を訪問した際、愛媛県総合科学博物館に隕鉄の展示があることが判り、早速見学しました。他の展示物はそこそこに隕鉄のコーナーへ。『触ってみてください。写真もOKです。』そう書かれた看板に催促されるように、触ってみました。重く、冷たく感じた感触を今でも思い出します。こんな隕鉄が欲しい、思いは募るばかりです。機会ある毎に、人と出会うたびに『隕鉄が欲しい』と言いました。一度友人から頂いたのですが、加工しても期待した隕鉄特有の幾何学模様は現れませんでした。

2007年7月、『ギボン隕鉄』が3個送られて来ました。大きい塊は3.6 kg、中と小は削りだして幾何学模様があり、これらの隕鉄は私の宝物になり『鉄のふしぎ博物館』に展示しています。

「ウィドマンステッテン組織」



ギボン隕鉄
部分拡大図
小



ギボン隕鉄 大

ギボン隕鉄

1936年、アフリカのナミビアで発見されたギボン隕鉄。

榎本武揚の流星刀

明治23年、富山県白萩村で発見された白萩隕鉄で明治31年、刀を作り時の皇太子(大正天皇)に献上した。榎本は、霊験あらたかな日本刀の素材には、隕鉄がぴったりだと考えて、作刀を思い立った。隕鉄だけで作らせようとしたが刀匠、岡吉宗家は、かなり苦勞た。岡吉から榎本に宛てた手紙に、「星鉄で刀を作ることは伝授も経験もなく、玉鋼と同じ方法を試みたが困難だった。色々考えながら3度やり直した結果、白熱するまで加熱してようやく出来た。研ぐと美しい地肌が出た…」という意味の言葉が残っている。

参考図書

鉄の歴史と化学 田口 勇 裳華房 1988年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/bike/>
ryou@memenet.or.jp

鉄のふしぎ博物館



ギボン隕鉄

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!

「鉄のふしぎ博物館」 7月開館予定